

# 「カジダン・イクメン」と男女共同参画の推進



**飯島 絵理**  
国立女性教育会館研究国際客員研究員。全国の男女共同参画センターやNPO、大学の男女共同参画に関する取組について多くの調査研究に携わる。國學院大学ほか非常勤講師。

## 男性の家庭への参画と男女共同参画

本特集に登場するような積極的に育児にかかわる「イクメン」や、料理や掃除、洗濯を手際よくこなす「カジダン」は、近年、若い世代を中心に増えてきているようです。仕事に偏らないワーク・ライフ・バランスのとれた生活を送ることは、男性にとっては、心身の健康を維持できたり、子どもの成長に深くかかわることで充足感を得られたりといった効果をもたらすことが考えられます。子育て期の「イクメン」に限らず、未婚率・離婚率の上昇によって一人暮らしをする男性も増加し、また主に嫁の役割とされてきた自宅介護を担う男性も多くなる等、男性の暮らし方・生き方は大きく変わってきています。家のことは女性だけでできればよい、女性に任せておけばよいという時代ではなくなっているといえます。

しかし、全体としてみると、さいたま市の調査(P3・図2)にもあるように、男性はまだまだ仕事中心の生活を送っており、家事・育児に費やす時間は、妻の就労の有無によらず、かなり少ないのが現状です。男性が家事・育児にかかわらない要因の一つには長時間労働があり、特に、子育て期にあたる30・40歳代の男性の労働時間は長くなっています。育児休業取得率も、平成24年度には女性83・6%に比べ、男性は1・89%と低迷しています。

現在、日本社会の成長戦略の重要施策として、女性の活躍が推進されつつあるところですが、男性の働き方の見直しや家庭への参画は、女性が活躍し、管理職等の意思決定過程へ参画していく上でも欠かせません。長時間労働を前提とした既存の労働環境では、「男並み」に働ける限られた女性しか活躍できないからです。男女ともに多様な柔軟な働き方ができ、同時に能力を発揮することのできる制度や風土を整えていくことは、結果として企業にも、離職率の低下や生産性の向上、多様な価値観による職場の活性化等をもたらします。

**家庭参画から地域参画へー男女共同参画の地域づくりにもむけて**  
地域における男女共同参画の推進に

## 第3次 さいたま市男女共同参画のまちづくりプランがスタート!



～ 女と男 市民一人ひとりが人権を尊重しあい 共に生きるさいたま市の実現 ～

本市における男女共同参画施策の今後の方向性と内容を明らかにし、施策の総合的かつ計画的な推進を図ることを目的に、第3次プランを策定しました。重点事項には、最近の男女共同参画に関する動向などを踏まえ、第2次プランから継続となった3項目に新たな2項目を加え、5項目を設定しています。

### \* 計画における重点事項と具体的施策 \*

- |  |   |
|--|---|
| <p><b>1</b> <b>仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の推進</b><br/>主な推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)推進事業</li> <li>積極的な取組を行っている企業等への認証制度の実施</li> </ul> | <p><b>4</b> <b>地域における男女共同参画の推進</b><br/>主な推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域活動における男女共同参画の啓発</li> <li>避難場所運営における男女共同参画の推進</li> <li>介護者サロン・カフェの増設</li> </ul> |
| <p><b>2</b> <b>女性の経済的自立の促進と「M字カーブ問題」の解消に向けた取組の推進</b><br/>主な推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>再就職支援のための講座等の開催</li> <li>事業所内保育施設推進事業</li> </ul>                | <p><b>5</b> <b>女性に対するあらゆる暴力の根絶</b><br/>主な推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相談体制の強化と周知</li> <li>女性に対する暴力防止のための情報提供</li> </ul>                                |
- 新** **3** **男性にとっての男女共同参画の推進**  
主な推進事業
- カジダン・イクメン写真展の開催
  - 子育てパパ応援プロジェクト
  - 男性の悩み電話相談の実施

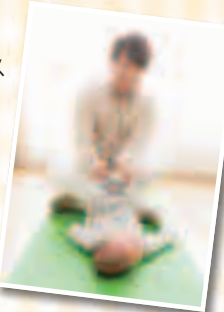
詳しくは、**市ホームページ**をご覧ください。



## カジダン・イクメン写真展 作品募集!

「カジダン・イクメン写真展」を開催します!  
あなたの周りに、家事に積極的な男性「カジダン」、日常的に育児を楽しむ男性「イクメン」はいませんか? 家事や育児をしている姿を撮影していただき、エピソードとともにご応募ください!  
応募者の中から抽選で、1,000円分の図書券を10名様に進呈します。

- 応募作品** さいたま市内に在住、在勤の男性が家事や育児に取り組んでいる写真
- 応募資格** さいたま市内に在住・在勤の方
- 応募締切** 平成26年10月31日(必着)
- 応募方法**
- メールでの応募方法  
写真データとともに、必要事項\*をご記載のうえ、さいたま市男女共同参画課メールアドレス(danjo-kyodo-sankakuka@city.saitama.lg.jp)へお送りください。(メールの容量は1MB以内でお送りください)
  - 直接持参または郵送での応募方法  
写真データを入れたCD-RやUSB等の記録媒体とともに、必要事項\*をご記載のうえ、直接持参または郵送によりご応募ください。(ご郵送いただいた記録媒体はお返しできませんのでご了承ください)
- あて先** 〒330-9588 さいたま市浦和区常盤六丁目4番4号  
さいたま市役所 男女共同参画課
- ※必要事項**
- ①応募(撮影)者 氏名(ふりがな)・年齢
  - ②住所 ③電話番号 ④メールアドレス
  - ⑤タイトル ⑥被写体との関係
  - ⑦作品のエピソード(100文字程度)
- 展示**  
市ホームページ、男女共同参画推進センター(シーノ大宮センタープラザ3階)、中央区役所、浦和区役所、岩槻区役所(平成26年12月～平成27年2月の間を予定しています)
- ※**応募作品は、広報物やWEBサイトで多目的に使用することがあります。



※この写真はイメージです。

参考webサイト: 国立女性教育会館「男女共同参画と男性」 <http://www.gakusyu-program-nwec.jp/>

### 通信員のコメント

- 植原 晴子さん  
「カジダン・イクメン」の増加は、性別に関わりなく子育てしようとする意識を持つ存在を増やす事になり、良い子どもを育てるという意味でも社会的に必要不可欠です。子どもの幸せを考える場を沢山作ってほしいです。
- 峰岸 早苗さん  
家事・育児に関わる男性も増えてきましたが、それはまだ「手伝う」レベルと感じます。更に推進していくためには、①男女共同参画の視点に立った幼少期からの教育、②職場の労働環境の整備と改善が必要であると考えます。
- 新藤 賢一さん  
「カジダン・イクメン」の増加は、女性の就業率の向上や活躍の促進、及び第2子以降の出生割合向上に繋がり、企業にも、優秀な人材の確保、社員の勤労意欲や集中度・効率化が高まるなどのメリットがあると思います。
- 山崎 真実さん  
働く女性が増加した今日、女性の負担は確実に重くなっています。「カジダン・イクメン」という言葉に捕われず、男性が家事や育児をするのは必要不可欠だと思えます。